

令和七年度

自己点検・評価書  
(学校評価報告書)

附属天王寺小学校

## 1 附属天王寺小学校の現況

### (1) 学校名

大阪教育大学附属天王寺小学校

### (2) 所在地

大阪市阿倍野区松崎町1-2-45

### (3) 学級数・収容定員

18学級(1学年3学級) 収容定員630人(1学級35人)

### (4) 幼児・児童・生徒数

626人(男子312人・女子314人)

### (5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 1人, 教諭 20人(うち, 臨時的雇用3人), 非常勤講師 10人, 事務職員1人, 臨時用務員(用務員)1人, 臨時用務員(調理師)7人, 教育後援会雇い事務職員1人, スクールロイヤー1人, カウンセラー1人, 警備員2人

## 2 附属天王寺小学校の特徴

本校は, 大阪教育大学の附属する小学校で, 教育基本法及び学校教育法に基づいて義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを行う。

## 3 附属天王寺小学校の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって, 教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として, 実習生を随時受け入れ, 適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し, 教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員研修に研修の場を提供すること。

## 4 附属天王寺小学校の学校教育目標

個が生きる学校

「自他の人格を尊重し, 実践力のある子」 「生命を尊重し, 健康で安全につとめる子」 「みんなと協力してしごとのできる子」 「ものごとを最後までやりとおせる子」 「きまりを守り, 明るくらせる子」

## 5 附属天王寺小学校の学校教育計画

### 1 学び合う集団の形成と確かな学力の定着

学び合う集団の形成を目指し, 各教科, 道徳, 特別活動等を通じて共に考える力, 伝え合う力の定着を図る。

### 2 安心・安全な環境と豊かな人間関係づくりの推進

誰もが気持ちよく学ぶことができる環境を整え, また一人一人が自分本位に陥ることなく, 相手の立場に立って考え, 行動できる児童を育成する。

| 自己評価 |              | 学校関係者評価 |           |
|------|--------------|---------|-----------|
| A    | 高いレベルで達成できた  | A       | とても適切である  |
| B    | 達成できた        | B       | おおむね適切である |
| C    | 一部達成できなかった   | C       | あまり適切でない  |
| D    | ほとんど達成できなかった | D       | 適切でない     |
|      |              | E       | 判定できない    |

※今年度は昨年度の反省をうけ、アンケート項目の改善を行った。(参考資料として、旧アンケート結果を掲載している。)

|        |   |
|--------|---|
| 学校教育目標 | 個が生きる学校   |
| 学校教育計画 | 1 学び合う集団の形成と確かな学力の定着<br>学び合う集団の形成を目指し、各教科、道徳、特別活動等を通じて考える力、伝え合う力の定着を図る。 |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)      | 具体的な取組内容<br>(評価指標)                | 自己点検評価   |  |    | 学校関係者評価  |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策  |
|-------------------------|-----------------------------------|--|--|----|--|----|--|
|                         |                                   | 達成状況   | 改善点  | 評価 | 意見・理由  | 評価 |  |
| (1) 学び合う集団の形成<br>(学級経営) | ① 学級の当番活動の内容、方法を学年や学級の実態に応じて工夫する。 | 旧教員アンケート結果 (R4→R5→R6)<br>旧◎学級の当番活動の内容、方法を学年や学級の実態に応じて工夫しましたか<br>①よく工夫した 【27.8%→33.3%→54.5%】<br>②工夫した 【68.2%→55.6%→45.5%】<br>③あまり工夫しなかった 【9.1%→5%→0%】<br>④工夫しなかった 【0%→5%→0%】<br>新教員アンケート (R7)<br>◎学年や学級の実態に応じ、児童が「みんなが学びやすいクラスにするために工夫して取り組める」よう、当番活動の内容や方法をくふうしましたか。<br>① よくできた 【34.8%】<br>② できた 【43.5%】<br>③ どちらともいえない 【21.7%】<br>④ あまりできなかった 【0%】<br>⑤ できなかった 【0%】 | 児童側の肯定感が高いが、教員側のアンケートには「どちらともいえない」が一定数存在し、高学年になるにつれ当番活動に対する「自分なりの工夫」が停滞する傾向が見受けられる。<br>今後は、教師が仕事を割り当てる「役割分担」にとどまらず、児童自 | B  | 児童の自主性を尊重する現在のきめ細やかな取り組みは、価値が高く素晴らしい。<br>一方で、教員の資質による指導のばらつきや、高学年になるにつれて掃除等が意義を理解されない「やらされ仕事」になる懸念がある。 | A  | 掃除等の活動を単なる作業とせず、「自分たちの学び場を自分たちで綺麗にする」という目的意識や必要性を児童に理解させる指導を強化する。高学年においては、教員の介入を徐々に減らし、児童自らが学級生活の課題を見出し解決に向けて工夫する、自発的・自治的な活動への転換を図る。 |

旧児童アンケート(R6)

◎クラスの仕事(日直,係)をよくがんばりましたか。

| 学年          | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
|-------------|----|----|----|----|----|----|
| よくがんばった     | 80 | 84 | 80 | 67 | 57 | 48 |
| がんばった       | 19 | 16 | 20 | 33 | 38 | 50 |
| あまりがんばらなかつた | 1  | 0  | 0  | 0  | 2  | 2  |
| がんばらなかつた    | 0  | 0  | 0  | 0  | 3  | 0  |

新児童アンケート(R7)【1年】《2年》

◎みんなが勉強しやすいクラスにするために、仕事を工夫してがんばりましたか

- ① とてもそう思う【54.3%】《53%》
- ② すこしそう思う【37.1%】《37.6%》
- ③ どちらともいえない【4.8%】《8.5%》
- ④ あまりそう思わない【3.8%】《0.9%》
- ⑤ ぜんぜんそう思わない【0%】《0%》

新児童アンケート(R7)【3年】《4年》

◎みんなが学びやすいクラスにするために、自分の仕事を工夫して取り組みましたか

- ① とてもあてはまる【68.1%】《38.8%》
- ② まあまああてはまる【22.4%】《48.5%》
- ③ どちらともいえない【9.5%】《12.7%》
- ④ あまりあてはまらない【0%】《0%》
- ⑥ ぜんぜんあてはまらない【0%】《0%》

新児童アンケート(R7)【5年】《6年》

◎より良い学習環境をつくるために、係や日直などの役割において、自分なりの工夫や努力ができましたか

らが学級生活の課題を見出し、解決に向けて工夫する「自治的活動」への転換を図る必要がある。  
 教員が統制しすぎず、かつ放任しない適切なファシリテーションの在り方を校内で共有していくことが改善点である。

|                                       |   |  |   |   |   |   |
|---------------------------------------|---|--|---|---|---|---|
|                                       |   | <p>たか</p> <p>① 非常にあてはまる【37.8%】《21.6%》</p> <p>② あてはまる【48%】《53.6%》</p> <p>③ どちらともいえない【20.6%】《9.3%》</p> <p>④ あまりあてはまらない【4.1%】《0%》</p> <p>⑤ まったくあてはまらない【0%】《0%》</p>  |   |   |   |   |
| <p>②各授業や、特別活動において、継続的に対話活動を取り入れる。</p> | <p>旧教員アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> <p>◎各授業や特別活動において、対話活動を取り入れましたか</p> <p>①よく取り入れた【40.9%→55.6%→38.5%】</p> <p>②概ね取り入れた【52.4%→39.4%→53.8%】</p> <p>③あまり取り入れなかった【0%→5%→7.7%】</p> <p>④取り入れなかった【0%→0%→0%】</p> <p>新教員アンケート (R7)</p> <p>◎各授業や特別活動において単発の活動に留まらず継続性を意識して対話活動を取り入れましたか。</p> <p>①よくできた【33.3%】</p> <p>②できた【45.8%】</p> <p>③どちらともいえない【16.7%】</p> <p>④あまりできなかった【4.2%】</p> <p>⑤できなかった【0%】</p> <p>旧保護者アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> <p>◎授業での対話活動等を通して、子ども同士が互いに学び合う雰囲気は感じられましたか</p> <p>①よく感じられた【79%→73.3%→84.3%】</p> <p>②感じられた【20%→25%→14.93%】</p> <p>③あまり感じられなかった</p> | <p>保護者からの評価は非常に高い一方で、教員の「よくできた」という自己評価は控えめである。</p> <p>授業内での「話し合いの場(量の確保)」を設けることには成功しているが、それが児童の「深い学び(思考の変容)」にどう結びついたのか、教員がより手応えを感じられるようにすることが課題である。</p> <p>今後は対話の「質」へと視点を移し、児童の思考が深まるプロセスを見取るための評価指標を確立していく。</p> | B | <p>児童の約8割が「友達と話すことで理解が深まった」と回答しており、授業における対話活動の取り組みが明確な成果を上げていると高く評価できる。</p> | A | <p>各教科の特性に応じた効果的な対話活動を継続する。対話が一部の活発な児童に偏らないよう、ペアワークや少人数グループでの活動を積極的に取り入れる。また、「人の意見を否定しない」等の対話ルールをクラス全体で共有し、全ての児童が安心して発言できる心理的安全性を確保し、対話の「質」の向上を目指す。</p> |

【6.8%→1.6%→0.6%】  
 ④感じられなかった【1.2%→0.3%→0.3%】

新保護者アンケート結果 (R7, 回答 460 人)  
 ◎授業での対話活動などを通して、子ども同士が互いに高め合い、学び合う雰囲気をお子様は感じている(家庭でそのような話をしている)と思いますか

- ① とてもよく感じている【55.9%】
- ② 感じている【38%】
- ③ どちらともいえない【4.6%】
- ④ あまり感じない【1.3%】
- ⑤ まったく感じていない【0%】

旧児童アンケート(R6)

◎授業や行事(スポーツデーや学芸会)で友達と話し合ったり、協力したりできましたか。

| 学年        | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
|-----------|----|----|----|----|----|----|
| よくできた     | 77 | 85 | 79 | 77 | 87 | 79 |
| できた       | 22 | 15 | 21 | 21 | 12 | 20 |
| あまりできなかった | 1  | 0  | 0  | 2  | 2  | 0  |
| できなかった    | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  |

③児童の学級の雰囲気の満足度を高める。  
 B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より20%以上とする。(※QUアンケートを活用)

児童QUアンケート結果 (R5→R6→R7)

| 学級生活満足群 |                        |
|---------|------------------------|
| 1年生     | 70%→71%→81% (全国平均 42%) |
| 2年生     | 80%→82%→85% (全国平均 42%) |
| 3年生     | 70%→93%→91% (全国平均 42%) |
| 4年生     | 82%→63%→89% (全国平均 43%) |
| 5年生     | 53%→87%→81% (全国平均 43%) |
| 6年生     | 81%→77%→85% (全国平均 43%) |

QUアンケート等における学級生活満足群の割合が全国平均を大きく上回り、昨年度からの大幅な改善も見られるなど、極めて良好な状態であ

A  
 学級満足度が8割を超えている現状は非常に高く評価できる。今後は、比較対象として「全国の私立学校の平均」を用いる方が実態に即していると考えられる。また、塾の役割が大きくなる中、学校が持つ本質

A  
 高い満足度(8割超)を維持し、さらに9割超えを目標とする。  
 多忙になる高学年に対し、学校が「学びの楽しさ」や将来の学力の土台となる「探究心」「人間的成長」を促す場であるという方針を保護者会等

|                    |                             |   | <p>る。</p> <p>現在の良好な数値を維持・向上させるため、各学級の良い雰囲気や個々の教員の力量（属人的な学級経営スキル）に依存させるのではなく、学年団や学校全体の「組織的なノウハウ」として共有し、形式知化していくことが次なる改善点である。</p> |    | <p>的な役割への保護者の理解が不可欠である。</p>                           |    | <p>で明確に伝え、保護者との連携・共有を強化する。</p>   |
|--------------------|-----------------------------|---|---|----|---|----|--|
| 本年度の重点目標<br>(評価項目) | 具体的な取組内容<br>(評価指標)          | 自己点検評価  |   |    | 学校関係者評価   |    | 学校関係者評価を踏まえた改善策  |
|                    |                             | 達成状況  | 改善点   | 評価 | 意見・理由   | 評価 |  |
| (2) 確かな学力の定着       | ①学習課題や発問を工夫し、多様な意見が出るようにする。 | <p>旧教員アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> <p>◎児童から多様な意見がでるように、学習課題や発問を工夫しましたか</p> <p>①よく工夫した 【31.8%→50%→46.2%】</p> <p>②工夫した 【68.2%→44.4%→53.8%】</p> <p>③あまり工夫しなかった 【0%→5%→0%】</p> <p>④工夫しなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>新教員アンケート (R7)</p> <p>◎児童から多様な意見が出るように工夫し、児童が「理解が深まった」「解決のアイデアがひらめいた」と実感できるような学習課題や発問を設定できましたか。</p> <p>①よくできた 【37.5%】</p> | <p>児童アンケートで「解決のアイデアがひらめいた」等の肯定層が多く、知的好奇心は十分に引き出されているが、教員側の自己評価には迷いが見られる。</p> <p>多様な意見を引き出す発問の工夫に加え、引き出された意見をどのよ</p>             | B  | <p>授業の工夫に関する評価は非常に高いため、現在の取り組みの方向性は適切であり、現状維持で良い。</p> | A  | <p>高く評価されている現状の取り組みを継続する。多様な意見を引き出す学習課題や発問の工夫を引き続き行い、教員間で質の高い授業実践やノウハウを共有していく。</p> |

- ② できた 【29.2%】
- ③ どちらでもない 【25%】
- ④ あまりできなかった 【8.3%】
- ⑤ できなかった 【0%】

旧児童アンケート (R6)

◎友達のいろんな考えを聞くことで、授業がよくわかるようになりましたか。

| 学園         | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
|------------|----|----|----|----|----|----|
| よくわかった     | 62 | 84 | 78 | 83 | 85 | 65 |
| わかった       | 35 | 15 | 22 | 17 | 15 | 33 |
| あまりわからなかった | 3  | 1  | 0  | 0  | 0  | 2  |
| わからなかった    | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  |

新児童アンケート (R7) 【1年】《2年》

◎友達のいろんな考えを聞くことで、勉強がもっとよくわかりましたか

- ① とてもそう思う 【83.8%】《74.4%》
- ② すこしそう思う 【14.3%】《22.2%》
- ③ どちらともいえない 【0%】《3.4%》
- ④ あまりそう思わない 【1.9%】《0%》
- ⑤ ぜんぜんそう思わない 【0%】《0%》

新児童アンケート (R7) 【3年】《4年》

◎友達の意見を聞くことで、新しい考えに気づいたり、学習の内容がよくわかったりしましたか。

- ① とてもあてはまる 【67.2%】《61.2%》
- ② まあまああてはまる 【29.3%】《35%》
- ③ どちらともいえない 【3.5%】《3.8%》

うに整理し、本時の学習のねらいへと収束させていくかという、教員の「授業デザイン力（板書計画や発問の構造化）」の向上が求められる。

|  |  |  |   |   |   |   |
|--|--|--|---|---|---|---|
|  |  | <p>④ あまりあてはまらない【0%】《0%》</p> <p>⑤ ぜんぜんあてはまらない【0%】《0%》</p> <p>新児童アンケート (R7) 【5年】《6年》</p> <p>◎友達の多様な考えに触れることで、自分の考えが深まったり、解決のアイデアがひらめいたりしましたか</p> <p>① 非常にあてはまる【62.2%】《57.7%》</p> <p>② あてはまる【32.7%】《33%》</p> <p>③ どちらともいえない【5.1%】《9.3%》</p> <p>④ あまりあてはまらない【0%】《0%》</p> <p>⑤ まったくあてはまらない【0%】《0%》</p>  |   |   |   |   |
|  | <p>②ノートやテストの返却の際、児童へのフィードバックを工夫する。</p> | <p>旧教員アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> <p>◎ノートやテストの返却の際、助言や指導を行いましたか</p> <p>①よく助言や指導を行った【30%→33.3%→30.8%】</p> <p>②助言や指導を行った【65%→61.1%→61.5%】</p> <p>③あまり助言や指導を行わなかった【5%→5%→0%】</p> <p>④助言や指導を行わなかった【0%→0%→7.7%】</p> <p>新教員アンケート (R7)</p> <p>◎ノートやテストの返却時、「はんこ」「サイン」「授業での取り上げ」などを通じて、児童が自分の成長を実感し、「次も頑張ろう」という意欲がもてるような助言・指導を行いましたか</p> <p>① よくできた【33.3%】</p> <p>② できた【45.8%】</p> <p>③ どちらでもない【12.5%】</p> <p>④ あまりできなかった【8.3%】</p> | <p>保護者の多くはフィードバックによる児童の前向きな姿勢を実感しているが、一部の高学年において肯定感が下がる傾向が見られる。</p> <p>単なる賞賛や確認のサインにとどまらず、児童が自らの学習プロセスを客観的に振り返り、次の課題を自覚できるような「形成的評価」に基づく、具体的かつ記述的なフィードバックを充実させていくことが改</p> | B | <p>フィードバックに対する評価が相対的に低く、原因の分析が必要である。</p> <p>テストの裏への自由な記述を認めるなど、画一的でない評価方法や、多様な表現を受け止められる教員の応用力が求められる。</p> | <p>評価が伸び悩む原因を詳細に分析するとともに、児童の多様な表現や成果物を評価する「パフォーマンス評価」の視点を取り入れる。</p> <p>教員による評価のばらつきを防ぐため、事前にルーブリック等で評価基準を明確にして共有し、児童が次の課題を自覚できるような具体的かつ記述的なフィードバックを充実させる。</p> |

|  |  |  |               |  |  |  |  |
|--|--|--|---------------|--|--|--|--|
|  |  | <p>⑤ できなかった【0%】</p> <p>旧保護者アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> <p>◎ノートやテストに対する教員からの助言や指導はわかりやすいものでしたか</p> <p>①大変わかりやすい<br/>【47.5%→50.2%→51.1%】</p> <p>②わかりやすい 【45.3%→38.7%→42.4%】</p> <p>③あまりわかりやすいものでなかった<br/>【5.7%→8.8%→4.5%】</p> <p>④あまり助言や指導がなされなかった<br/>【1.5%→2.2%→2%】</p> <p>新保護者アンケート (R7, 回答 460 人)</p> <p>ノートやテストへの助言 (はんこ、サイン、コメント等のフィードバック) を通じて、お子様が自分の課題を理解し、「次も頑張ろう」と前向きに学習に取り組む様子が見られましたか</p> <p>① とてもよく見られる【46.3%】</p> <p>② 見られる【39.6%】</p> <p>③ どちらともいえない【11.3%】</p> <p>④ あまり見られない【1.7%】</p> <p>⑤ まったく見られない【1.1%】</p> <p>新児童アンケート (R7)【1年】《2年》</p> <p>◎ノートやテストのはんこ・サインを見て、「次もがんばろう!」というきもちになりましたか</p> <p>① とてもそう思う【82.9%】《75.2%》</p> <p>② すこしそう思う【12.4%】《17.1%》</p> <p>③ どちらともいえない【2.9%】《5.1%》</p> <p>④ あまりそう思わない【1.9%】《1.7%》</p> <p>⑤ ぜんぜんそう思わない【0%】《0.9%》</p> <p>新児童アンケート (R7)【3年】《4年》</p> | <p>善点である。</p> |  |  |  |  |
|--|--|--|---------------|--|--|--|--|

|   |   |  |          |          |   |  |
|---|---|--|----------|----------|---|--|
|   |   | <p>◎ノートやテストにある先生の「はんこ」や「言葉」「サイン」を見て、自分のよさや直し方がわかり、「次もがんばろうと思いましたか</p> <p>① とてもあてはまる【73.3%】《63.1%》</p> <p>② まあまああてはまる【17.2%】《29.1%》</p> <p>③ どちらともいえない【9.5%】《7.7%》</p> <p>④ あまりそう思わない【0%】《0%》</p> <p>⑤ ぜんぜんそう思わない【0%】《1%》</p> <p>新児童アンケート (R7)【5年】《6年》</p> <p>◎先生からのフィードバックをきっかけに、課題を理解し「次も挑戦しよう」という意欲がわきましたか</p> <p>① 非常にあてはまる【64.3%】《43.3%》</p> <p>② あてはまる【21.4%】《42.3%》</p> <p>③ どちらともいえない【10.2%】《8.2%》</p> <p>④ あまりあてはまらない【2%】《6.2%》</p> <p>⑤ まったくあてはまらない【2%】《0%》</p> |          |          |   |  |
| <p>③児童の学習意欲を高める。</p> <p>B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より1点以上とする。(※QUアンケートを活用)</p> | <p>児童QUアンケート結果 (R5→R6→R7)</p> <p>学習意欲 ※満点12点</p> <p>1年生 11.3点→10.8点→11.2点<br/>(全国平均10.0点)</p> <p>2年生 10.8点→11.2点→10.4点<br/>(全国平均10.0点)</p> <p>3年生 11点→11.1点→11.0点<br/>(全国平均10.0点)</p> <p>4年生 10.8点→10.7点→10.8点<br/>(全国平均9.6点)</p> <p>5年生 10.1点→10.7点→10.7点<br/>(全国平均9.6点)</p> <p>6年生 10.5点→10.7点→10.6点<br/>(全国平均9.6点)</p> | <p>全学年において学習意欲が高く、基準を明確にクリアしている。現状の高い学習意欲を評価しつつ、今後は学習したことを実社会の問題や他教科の学びと結びつけ、児童自身が自らの学びの計画を立てて進めていく「自己調整学習」の態度の育成</p>  | <p>A</p> | <p>A</p> | <p>全体的な学力定着の成果として、児童の高い学習意欲が基盤となっていると推察される。</p> | <p>全学年において学習意欲が高く推移している現状を維持しつつ、今後は学習したことを実社会の問題や他教科の学びと結びつける指導を強化する。児童自身が自らの学びの計画を立てて進めていく「自己調整学習」の態度の育成へと接続していく。</p> |

|  |  |  |           |  |  |  |  |
|--|--|--|-----------|--|--|--|--|
|  |  |  | へと接続していく。 |  |  |  |  |
|--|--|--|-----------|--|--|--|--|

|        |  |
|--------|--|
| 学校教育目標 | 個が生きる学校  |
| 学校教育計画 | 2 安心・安全な環境と豊かな人間関係づくりの推進<br>誰もが気持ちよく学ぶことができる環境を整え、また一人一人が自分本位に陥ることなく、相手の立場に立って考え、行動できる児童を育成する。 |

| 本年度の重点目標<br>(評価項目)                                    | 具体的な取組内容<br>(評価指標)               | 自己点検評価  |   |    | 学校関係者評価  |    | 学校関係者評価を<br>踏まえた改善策  |
|---|----------------------------------|---|---|----|--|----|--|
|   |                                  | 達成状況  | 改善点   | 評価 | 意見・理由  | 評価 |  |
| (1)安心・安全な環境<br>※校内整備、環境整備を行い、教員が働きやすい、児童が学びやすい環境を整える。 | ①児童が学びやすいように、教室や特別教室の環境を継続的に整える。 | <p>旧教員アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> <p>◎教室や特別教室を児童が学びやすく整えることができましたか</p> <p>①よくできた 【40%→50%→53.8%】</p> <p>②できた 【60%→38.9%→30.9%】</p> <p>③あまりできなかった 【0%→11%→15.4%】</p> <p>④できなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>新教員アンケート (R7)</p> <p>◎教室や特別教室を児童が学びやすく落ち着ける場所にするため、継続性を意識して環境を整えることができましたか</p> <p>① よくできた 【45.8%】</p> <p>② できた 【41.7%】</p> <p>③ どちらともいえない 【8.3%】</p> <p>④ あまりできなかった 【4.2%】</p> <p>⑤ できなかった 【0%】</p> <p>旧保護者アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> <p>◎お子様の教室や特別教室は、児童が学びやすく整えられていると感じられましたか</p> <p>①よく感じられた 【72.7%→68.3%→71.3%】</p> <p>②感じられた 【25.5%→27.7%→27%】</p> | <p>教員、保護者ともに環境整備の状況を高く評価しており、物理的な安全性や整備は十分に達成されている。</p> <p>今後は物理的な「整理整頓」という観点に加え、児童の学習成果を効果的に掲示したり、思考を促すツールを配置したりするなど、学習意欲をさらに喚起する「学習環境のデザイン」という視点を組織的に取り入れていく。</p> | A  | <p>保護者の協力体制も含め、校内環境の整備状況は高く評価できる。</p> <p>ただし、環境整備に対する教員と保護者の評価(満足度や求めるレベル)に認識の差がある可能性が指摘される。</p> | A  | <p>物理的な整理整頓に加え、学習成果の効果的な掲示など「学習環境のデザイン」の視点を取り入れる。また、教員と保護者間にある環境整備に対する認識のズレの背景を調査する。</p> |

|                                  |  |  |  |          |                                     |   |
|----------------------------------|--|--|--|----------|-------------------------------------|---|
|                                  |  | <p>③あまり感じられなかった<br/>【1.2%→4%→1.4%】</p> <p>④感じられなかった 【0%→0.6%→0.3%】</p> <p>新保護者アンケート (R7, 回答 460 人)</p> <p>◎教室や特別教室などの校内施設は、お子様にとって学びやすく、落ち着いた環境に整えられていると感じられますか</p> <p>① とてもよく感じられる 【51.3%】</p> <p>② 感じられる 【41.5%】</p> <p>③ どちらともいえない 【5.2%】</p> <p>④ あまり感じられない 【1.3%】</p> <p>⑤ まったく感じられない 【0.7%】</p>  |  |          |                                     |   |
| <p>②清掃指導に努め、校内を美しく保つことができます。</p> |  | <p>旧教員アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> <p>◎清掃指導に努め、校内を美しく保つことができましたか</p> <p>①よくできた 【40.9%→40%→61.5%】</p> <p>②できた 【54.5%→50%→30.8%】</p> <p>③あまりできなかった 【4.5%→10%→7.7%】</p> <p>④できなかった 【0%→0%→0%】</p> <p>新教員アンケート (R7)</p> <p>◎清掃指導を通じ、校内を美しく保つだけでなく、児童が「学校への美しさへの感謝」や「心地よさ」を自覚できるように働きかけをしましたか</p> <p>① よくできた 【25%】</p> <p>② できた 【54.2%】</p> <p>③ どちらでもない 【20.8%】</p> <p>④ あまりできなかった 【0%】</p> <p>⑤ できなかった 【0%】</p> <p>旧保護者アンケート結果 (R4→R5→R6)</p> | <p>保護者からの評価は高いが、教員の自己評価にはややばらつきが見られる。</p> <p>児童に清掃の手順を教えるだけでなく、なぜ環境を美しく保つ必要があるのかという「公共心」や「勤労の尊さ」を育む指導について、教員間で指導の意図やアプローチを統一していくことが改善点である。</p> | <p>B</p> | <p>保護者の協力による清掃活動は大変ありがたく、高く評価する</p> | <p>保護者の皆様との「良い循環」をさらに強固なものにするため、学校として最大限の感謝を伝えるとともに、環境整備が「児童の豊かな心や感謝の気持ちを育む教育活動」であることを丁寧に発信し、連携を深化させる。</p> <p>A</p> |

◎保護者の皆様が学校に来られたときの印象をお選びください

- ①掃除がゆきとどいている  
【62%→66.5%→84.3%】
- ②概ね掃除がゆきとどいている  
【34.3%→32.5%→14.9%】
- ③あまり掃除がゆきとどいていない  
【2.2%→0.6%→0.5%】
- ④掃除がゆきとどいていない  
【0.8%→0.4%→0.3%】

新保護者アンケート (R7, 回答 460 人)

◎学校に来られた際、教職員による指導や保護者ボランティア、児童の活動によって、校内の清掃が行き届き、美しく保たれていると感じられますか

- ① とてもよく感じられる 【72.6%】
- ② 感じられる 【24.1%】
- ③ どちらともいえない 【1.7%】
- ④ あまり感じられない 【1.5%】
- ⑤ まったく感じられない 【0%】

旧児童アンケート (R6)

◎教室や廊下のそうじや片付けをがんばれましたか。

| 学年          | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
|-------------|----|----|----|----|----|----|
| よくがんばった     | 63 | 70 | 73 | 66 | 70 | 52 |
| がんばった       | 35 | 26 | 21 | 30 | 28 | 42 |
| あまりがんばらなかつた | 2  | 4  | 6  | 3  | 2  | 6  |
| がんばらなかつた    | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  |

|     |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| かった |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|

新児童アンケート【1年】《2年》

◎学校がきれいできもちがいいなあと思いますか。きれいにしてくれる人に「ありがとう」の気持ちをもっていますか

- ① とてもあてはまる【90.5%】《76.1%》
- ② まあまああてはまる【6.7%】《18.8%》
- ③ どちらもない【0%】《4.3%》
- ④ あまりあてはまらない【0%】《0.8%》
- ⑤ ぜんぜんあてはまらない【0%】《0%》

新児童アンケート【3年】《4年》

◎学校が美しく保たれていて、心地よい（気持ちいい）と思いますか。また、きれいに掃除をしてくれる人に感謝の気持ちをもっていますか

- ① とてもあてはまる【81%】《73.8%》
- ② まあまああてはまる【16.4%】《22.3%》
- ③ どちらもない【2.6%】《3.9%》
- ④ あまりあてはまらない【0%】《0%》
- ⑤ ぜんぜんあてはまらない【0%】《0%》

新児童アンケート【5年】《6年》

◎校内が美しく保たれていることに心地よさを感じ、環境を整えてくれる人々に感謝の気持ちをもって過ごしていますか

- ① 非常にあてはまる【72.4%】《58.8%》
- ② あてはまる【23.5%】《34%》
- ③ どちらともいえない【3.1%】《7.2%》
- ④ あまりあてはまらない【1%】《0%》
- ⑤ まったくあてはまらない【0%】《0%》

|                       |   |   |                  |  |     |  |     |                                       |     |                                       |     |                                     |       |  |   |          |   |   |
|-----------------------|---|---|------------------|--|-----|--|-----|---------------------------------------|-----|---------------------------------------|-----|-------------------------------------|-------|--|---|----------|---|---|
| <p>(2) 豊かな人間関係づくり</p> | <p>①通学班別活動, トリオタイム, 委員会活動, クラブ活動での異学年交流を充実させることを通して, 児童の友達関係を良好にできるようにする。</p> | <p>新教員アンケート (R7)</p> <p>◎トリオタイムや委員会・クラブ活動において, 児童が「配慮」や「かかわり」といったソーシャルスキルを育めるよう, 意図的な場設定や指導を行いましたか</p> <p>① よくできた 【16.7%】<br/> ② できた 【54.2%】<br/> ③ どちらでもない 【29.2%】<br/> ④ あまりできなかった 【0%】<br/> ⑤ できなかった 【0%】</p> <p>新保護者アンケート (R7, 回答 460 人)</p> <p>◎トリオタイムや委員会, クラブ等の異学年交流を通して, お子様の友だち関係が広がり, 学校生活を楽しく送れていると感じられますか</p> <p>① とてもよく感じられる 【67.4%】<br/> ② 感じられる 【25.4%】<br/> ③ どちらともいえない 【5.9%】<br/> ④ あまり感じられない 【1.1%】<br/> ⑤ 感じられない 【0.2%】</p> <p>児童 QI アンケート結果 (R5→R6→R7)</p> <table border="1" data-bbox="663 1050 1144 1434"> <tr> <td colspan="2">ソーシャルスキル (4年生以上)</td> </tr> <tr> <td>◎配慮</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>30.9 点→29.9 点→30.7 点<br/>(全国平均 27.8 点)</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>29.5 点→30.6 点→30.2 点<br/>(全国平均 27.8 点)</td> </tr> <tr> <td>6年生</td> <td>30.3 点→31 点→30.3 点<br/>(全国平均 27.8 点)</td> </tr> <tr> <td>◎かかわり</td> <td></td> </tr> </table> | ソーシャルスキル (4年生以上) |  | ◎配慮 |  | 4年生 | 30.9 点→29.9 点→30.7 点<br>(全国平均 27.8 点) | 5年生 | 29.5 点→30.6 点→30.2 点<br>(全国平均 27.8 点) | 6年生 | 30.3 点→31 点→30.3 点<br>(全国平均 27.8 点) | ◎かかわり |  | <p>児童は異学年交流を大いに楽しんでおり, 人間関係も良好であるが, 教員は「意図的な指導や場作り」という点で十分な手応えを感じていない。</p> <p>児童の自然発生的な楽しさや交流に委ねるだけでなく, 上級生のリーダーシップ育成や下級生のフォローアップ育成など, 教員がより明確な「人間関係形成のねらい」を持って活動を意図的に仕組んでいくことが改善点として挙げられる。</p> | <p>B</p> | <p>地域のつながりが希薄な本校の特性上, トリオタイム等の異学年交流は非常に重要であり, 価値のある取り組みである。</p> | <p>A</p> <p>人間関係づくりに不可欠な異学年交流を今後も継続・推進する。児童の自然な交流に委ねるだけでなく, 上級生のリーダーシップ育成や下級生のフォローアップ育成など, 教員がより明確な「人間関係形成のねらい」を持って活動を意図的に仕組んでいく。</p> |
| ソーシャルスキル (4年生以上)      |   |   |                  |  |     |  |     |                                       |     |                                       |     |                                     |       |  |   |          |   |   |
| ◎配慮                   |   |   |                  |  |     |  |     |                                       |     |                                       |     |                                     |       |  |   |          |   |   |
| 4年生                   | 30.9 点→29.9 点→30.7 点<br>(全国平均 27.8 点)   |   |                  |  |     |  |     |                                       |     |                                       |     |                                     |       |  |   |          |   |   |
| 5年生                   | 29.5 点→30.6 点→30.2 点<br>(全国平均 27.8 点)   |   |                  |  |     |  |     |                                       |     |                                       |     |                                     |       |  |   |          |   |   |
| 6年生                   | 30.3 点→31 点→30.3 点<br>(全国平均 27.8 点)   |   |                  |  |     |  |     |                                       |     |                                       |     |                                     |       |  |   |          |   |   |
| ◎かかわり                 |   |   |                  |  |     |  |     |                                       |     |                                       |     |                                     |       |  |   |          |   |   |

4年生 28.5点→27.6点→28.8点  
(全国平均24.3点)  
5年生 27.1点→28.6点→28.4点  
(全国平均24.3点)  
6年生 28.1点→28.4点→28.2点  
(全国平均24.3点)

旧児童アンケート (R6)

◎トリオタイムは楽しいですか。

|          | 1年 | 2年 | 3年 |
|----------|----|----|----|
| とても楽しい   | 94 | 89 | 75 |
| 楽しい      | 5  | 11 | 20 |
| あまり楽しくない | 1  | 0  | 4  |
| 楽しくない    | 0  | 0  | 1  |

◎クラブ委員会はやりがいがありますか

|            | 4年 | 5年 | 6年 |
|------------|----|----|----|
| とてもやりがいがある | 82 | 86 | 74 |
| やりがいがある    | 16 | 12 | 21 |
| あまりやりがいがない | 1  | 2  | 3  |
| やりがいがない    | 1  | 0  | 2  |

新児童アンケート【1年】《2年》

ほかの学年のお友達とすごすトリオタイムは楽しいですか

- ① とてもそう思う【96.2%】《89.7%》
- ② すこしそう思う【3.8%】《5.1%》
- ③ どちらともいえない【0%】《0.9%》
- ④ あまりそう思わない【0%】《0.9%》

|             |   |   |             |  |     |                                 |     |                                 |     |                                 |     |                                  |     |                                  |   |   |  |
|-------------|---|---|-------------|--|-----|---------------------------------|-----|---------------------------------|-----|---------------------------------|-----|----------------------------------|-----|----------------------------------|---|---|--|
|             |   | <p>⑤ ぜんぜんそう思わない【0%】《0%》<br/> 新児童アンケート【3年】《4年》<br/> ◎トリオタイムやクラブ・委員会で、ちがう学年の友達と協力して楽しく活動できていますか</p> <p>① とてもあてはまる【87.1%】《71.8%》<br/> ② まあまああてはまる【8.6%】《23.3%》<br/> ③ どちらもない【2.6%】《4.9%》<br/> ④ あまりあてはまらない【0%】《0%》<br/> ⑤ ぜんぜんあてはまらない【0%】《0%》<br/> 新児童アンケート【5年】《6年》<br/> ◎委員会やクラブ等の活動において、下級生への配慮や他学年との協力を行い、校内が美しく保たれていることに心地よさを感じ、環境を整えてくれる人々に感謝の気持ちをもって過ごしていますか</p> <p>① 非常にあてはまる【58.2%】《51.5%》<br/> ② あてはまる【35.7%】《32%》<br/> ③ どちらともいえない【5.1%】《12.4%》<br/> ④ あまりあてはまらない【1%】《4.1%》<br/> ⑥ あてはまらない【0%】《0%》</p> |             |  |     |                                 |     |                                 |     |                                 |     |                                  |     |                                  |   |   |  |
|             | <p>②児童の友達関係の満足度を高める。<br/> B基準は、全国平均程度、A基準は全国平均より1点以上とする。(※QUアンケートを活用)</p> | <p>児童QUアンケート結果(R5→R6→R7)</p> <table border="1" data-bbox="663 967 1144 1441"> <tr> <td colspan="2">友達関係 ※満点12点</td> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>10.8点→11.1点→11.1点<br/>(全国平均9.9点)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>11.2点→11.3点→11.2点<br/>(全国平均9.9点)</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>11.2点→11.5点→11.5点<br/>(全国平均9.9点)</td> </tr> <tr> <td>4年生</td> <td>11.3点→10.8点→11.3点<br/>(全国平均10.1点)</td> </tr> <tr> <td>5年生</td> <td>10.7点→11.3点→11.3点<br/>(全国平均10.1点)</td> </tr> </table>                                | 友達関係 ※満点12点 |  | 1年生 | 10.8点→11.1点→11.1点<br>(全国平均9.9点) | 2年生 | 11.2点→11.3点→11.2点<br>(全国平均9.9点) | 3年生 | 11.2点→11.5点→11.5点<br>(全国平均9.9点) | 4年生 | 11.3点→10.8点→11.3点<br>(全国平均10.1点) | 5年生 | 10.7点→11.3点→11.3点<br>(全国平均10.1点) | <p>友達関係のスコアは全学年で高く、良好な関係性が構築されている。<br/> 現在の安心・安全な人間関係を基盤として、今後は授業において「意見の対立や葛藤」を恐れずに建設的な議論を行い、互</p> | <p>A<br/> 友人関係は良好な状態である。しかし、本校の生徒は同質性が高く、多様な背景を持つ他者と接する機会が少ない点は、社会性を育む上での課題である。</p> | <p>A<br/> 現在の良好な友人関係を維持・発展させるための取り組みを継続する。併せて、同質性が高いという学校の特性を補うため、授業や学校行事等を通じて、社会の多様性（障がいや異なる文化背景など）について学ぶ機会を創出する。その際、単なる知識の提供にとどまらず、当事者意識や共生社会への理解を深めるアプローチを工夫する。</p> |
| 友達関係 ※満点12点 |   |   |             |  |     |                                 |     |                                 |     |                                 |     |                                  |     |                                  |   |   |  |
| 1年生         | 10.8点→11.1点→11.1点<br>(全国平均9.9点)   |   |             |  |     |                                 |     |                                 |     |                                 |     |                                  |     |                                  |   |   |  |
| 2年生         | 11.2点→11.3点→11.2点<br>(全国平均9.9点)   |   |             |  |     |                                 |     |                                 |     |                                 |     |                                  |     |                                  |   |   |  |
| 3年生         | 11.2点→11.5点→11.5点<br>(全国平均9.9点)   |   |             |  |     |                                 |     |                                 |     |                                 |     |                                  |     |                                  |   |   |  |
| 4年生         | 11.3点→10.8点→11.3点<br>(全国平均10.1点)  |   |             |  |     |                                 |     |                                 |     |                                 |     |                                  |     |                                  |   |   |  |
| 5年生         | 10.7点→11.3点→11.3点<br>(全国平均10.1点)  |   |             |  |     |                                 |     |                                 |     |                                 |     |                                  |     |                                  |   |   |  |

|  |  |                                      |   |  |  |  |  |
|--|--|--------------------------------------|---|--|--|--|--|
|  |  | 6年生 11.2点→11.3点→11.3点<br>(全国平均10.1点) | いの考えを統合し<br>ていくような、よ<br>り高度な協働的学<br>びの経験を積ませ<br>ていくことが次の<br>段階における改善<br>点である。 |  |  |  |  |
|--|--|--------------------------------------|---|--|--|--|--|